

## 平成23年度第2回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成23年10月31日(月)

13時40分～15時40分

場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

### 1 開 会

### 2 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会会長

### 3 会議成立の報告（事務局）

委員26名中20名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。  
(協議会規約第6条第2項)

### 4 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

(1) 平成23年度国庫補助金の交付決定について

(2) 平成23年度事業委託契約書の締結について

事務局から「資料1」、「資料2」を一括説明・報告

(質問・意見等なし)

報告のとおり一括して承認。

(3) 軽井沢－小諸間増便実証運行の状況について

事務局から「資料3」を説明

(質疑・意見等)

#### <議 長>

・実証運行の状況、9月に実施をいたしました利用者アンケートについてご報告をいたしましたけれどもこれについてご意見・ご質問等はいかがでございましょうか。

ア 仮想のような形になってしまうかと思うのですが、この事業の中で、輸送人員ですとか輸送密度をみると、なかなか1年、2年という実験の中では成果が顕著に表れてこないということもあるわけですが、見る限り、ある程度の下げ止まりの効果が出ているのではないかと感じております。アンケート結果をみると、先程のご説明にもありましたが、県外からの利用が伸びているのではないかと、ということですが、これをみると年齢層でいくと中高年の皆さん、移動目的が観光・レジャー、初めて利用の方が伸びているというところからすれば、県外の方の利用が増加しているという分析は正解ではないかと思えます。軽井沢駅での新幹線との接

続の部分についていろいろ意見が出ているようでございますけれども、こういったことを改善していきながらやっていくという中で、私ども小諸市の方でも交通弱者の足を守るということ以外にも駅周辺の活性化ですとか、観光を中心とした街づくりだとか、こういった部分についても、これを機に一緒に取り組んでいけたらと思っております。

イ やはりこれだけ輸送密度とか下げ止まりの効果や、アンケート結果でも概ね好評を得ている増便事業ですので、来年度以降も国の補助金の有無に拘らず、これは3市町で続けて行かなかなければならないのかなあと感じました。それと、アンケートの中にありますように、しなの鉄道とバス等の公共交通機関との接続も考えて行かなければいけないと強く感じたところです。

ウ 御代田町におきましても、昨年8月から増便事業実施ということで、町民には周知をしてきたつもりだったのですが、ここにきて認知度が上がってきたと思っております。増便事業に対するミーティングにつきましては、町民からも是非とも回ってきてくださいという声を数多く頂戴しております。効果としましては下げ止まりがみられるということですが、御代田町におきましては、昨年度駅の乗降客数が一昨年度よりも増加しております。いずれにしましても1～2年というスパンでいろいろな結果は出るものではないと思っておりますので、御代田町としましても、このまま行きたいと考えております。

#### <議 長>

- ・増便事業に関係する3市町の方から感想などがございました。いずれも今回のデータからみても下げ止まりの傾向といったものが数値的にも現れていること、あるいはこの事業の課題として接続の問題等はあるけれども、事業の効果という点をもっと長いスパンで考えて行くべきで、そう意味ではもっと続けて行くべきといったご意見・感想であったと思っております。ただ、補助金の方は今年がいわば経過措置として暫定的に対象にはなっておりますが、来年度以降は仮に補助金が付かないとしても続けるかという問題もございますが、他の関係の皆さんどうでしょうか。

接続の問題は地域との連携という中でもお話をしようと思ったのですが、ローラー作戦でいろいろ回りましてもしなの鉄道の限界といいますか、少し課題として考えて行きたいと思っております。この場では、現在の状況についてご報告をしたということで来年度以降の取扱についてはまた別途お話をしていきたいと思っております。

#### (4) 地域との連携について

年間輸送人員1千万人以上確保ローラー作戦実施状況

事務局から「資料4」を説明

(質問・意見等)

<議 長>

- ・この関連につきましては、沿線市町の皆様に、当初教育委員会等へ一緒をお願いをしていただいたということで、ご協力・ご支援に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

エ 非常にいいお取組をしていただいていると思います。学校関係ということでご報告をいただきましたが、地域との連携という観点でみると、これはこれで対応をしていただければ良いと思いますが、対応された学校では、事業者・利用者・学校管理者のご意見について大きく3つ位の視点でお答えいただいているように見受けられます。特に学校の管理者としての立場で子ども達にどう利用してもらおうか、という観点でみると、一つは通学の定期の問題。それから社会見学だとか部活動の遠征とかという面の両方あるかなあと拝見しました。通学定期についてはご意見いくつかありますし、学校の社会見学とか部活動の遠征といったものについては団体割引の話について意見が出ていることが多いという気がしました。例えば地域との連携ということで各地区と連携してやっていくのであれば、こういった意見を踏まえて営業戦略として例えば団体割引をどうしていくとか、旅行業としての取組をどうしていくとか、通学定期をどうしていくとか、もし何かフィードバックできるものがあれば来年に向けても各学校でお取組をいただくのに非常にいいのかなあと思いました。その辺もしお考えがあれば教えていただきたいと思います。

<議 長>

- ・地域との連携について、とりあえず学校現場だけですが、さまざまなご意見をいただきまして、大変参考になったというのが、正直なところです。いただいたご意見は、これから、しなの鉄道として、場合によっては取り組んでいかなければならないテーマもございます。実はこれと並行して先般社内のすべての社員から提案を募ったところです。ほぼ全員から提出のあった提案内容を含めまして、これからどういうものを事業化していくのか、全社的な体制で検討していきたいということで、近々社内に一千万人確保の対策本部の設置をいたします。これは社長を本部長に設置をし、その元の中堅あるいは若手職員をメンバーにした検討チームを設置いたしまして、具体的に今お話があったようなことを含めて実現できるかできないのか、またはこういう方法があるのではないかとといったことを、逐一検討をして、来年度施策化できるものは施策化していく、ということを考えております。できるだけいただいたご意見を尊重して、実現できるものは何でもやると、そんな気構えでやりたいと思っております。

オ 団体に関係する話になろうかと思いますが、以前ある団体の幹事をして、篠ノ井駅から上田駅、上田電鉄別所温泉方面に電車で旅行をしたことがあります。上田駅に電話したのですが、篠ノ井駅ではしなの鉄道線内の団体の扱いをやってくれないのですね。で、当日上田駅の方から篠ノ井駅に、しなの鉄道の団体客が何名乗車するから乗せてやってくれという連絡をしてもらって上田駅まで来たのですが、着いた後、外で旅館のバスが2台待っているのですが、精算等の手続きがいろいろあって、長く時間がかかって不都合を感じたことがあります。

ナイス・シルバー平日フリーきっぷの案内が資料の中にありますが、篠ノ井、長野の駅はJRの駅ということで、しなの鉄道の係の人は出ないのかなあ思われます。何か連絡員とか事務員の方が、人件費等の問題はありますかと思いますが、そういう方がいれば、団体とか、こういうフリーきっぷ等の販売もできると思います。長野駅、篠ノ井駅ばかりでなく、軽井沢に向けて関心を持っていますし、そういう利便性はあるのではないかと感じた次第であります。

#### <議長>

・ありがとうございました。いろいろな施策をやっているのですが、学校関係を回っても、こういう点が不便であるという意見をいろいろいただきました。団体割引についても学校関係については割引が適用されるためには、引率の先生が同行するということが必要なわけけれども、中学生位になると本当に先生の同行が必要なのか、先生もいろいろと掛け持ちをするので、行けない場合もある。しっかりリーダーを決めれば別に引率の先生がいなくてもいいのではないかと、という例えばそんな話をはじめ、いろいろ制度上のこういう問題があるという話をいただいていますので、またその意見を踏まえて先程のチームなりで検討をしていきたいと思っております。

篠ノ井駅、長野駅の話もございましたけれども私どもの営業区間は軽井沢－篠ノ井ですが、長野まで乗り入れをしていますので、軽井沢－長野間が事実上の営業区間といっても差支えは無いのですが、営業権が長野駅には無いものですから、長野でのいろいろなPRであるとか、お問い合わせのあったときの対応などについては、満足にできていないのが現状であり、今後の経営上の大きな課題として、なんとか長野なり、そういうところできちんとした対応ができるような体制が組めないものかということを検討していきたいと思っております。

カ 後になりましたが、しなの鉄道で行く篠ノ井イヤーガイドとして立派なパンフレットを作成していただいたことに、篠ノ井イヤーの一関係者として改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

それからもう一つ、資料4の2Pに、その他に群馬県を通学範囲としている家庭もあり、ぜひ横川までの鉄道を復活して欲しい。と書いてありますが、通学としてもそうでしょうけど、鉄道ファンの方が全国に相当数おいでになる訳で、カメ

ラを持って撮ったり、電車に乗って運転してみたりということに興味を持っている人がおられるわけです。横川と軽井沢間は高低差が 900m以上ある等の問題があるかと思えますけれども、群馬県の方は積極的な取組をされており、是非長野県にもお願いをして、横川と軽井沢間の鉄道が通じれば、いろいろな意味でメリットが出てくるのではないかと思います。その辺のところを、しなの鉄道さんから長野県の方へお願いしてみて、出来る可能性があるのであれば、なんとかやっていただきたい。これは鉄道ファンだけではなく、ここに書いてあります通学者の皆さんもそうですし、あるいは長野県を訪れようとする人も、鉄路で碓氷峠を越えてしなの鉄道に乗ってそれぞれのところに行くという可能性も大いに出てくると思うのですが、そこの一応お考えいただきたい。

<議 長>

- ・そういうご意見があるということも存じておりますが、いろいろな問題がございますので、今日はその辺のことについては、返答はできません。ただ承知はしております。

キ ウォーキングの関係でいろいろご検討をなさっているようですが、9月末にしなの鉄道を利用し、30人ほど連れて小諸～信濃追分まで往復をし、歩行距離としては約8Km程を歩きました。そのとき車中での声で、若い頃は列車をよく利用した。当時を思い出して、懐かしい、列車は良いものだという声がありました。しなの鉄道の沿線自治体には恐らくどこでも高齢者クラブ、連合会といった組織体を持っていると思います。私どもの団体は65歳以上の会員が3,000名程入会しておりますけれども、列車を利用するウォーキングというものは大変魅力のあるスケジュールだと思ひまして、早速第2回を11月15日に今度は小海線を利用する計画で現在会員を募集しております。反省の中で出た意見ですが、こういうことがいいかどうかは別にして、車内でかすかに聞こえる位の音量で民謡を聞かせていただければありがたいという声がありました。高齢者向けの音楽を車内で流していただければありがたいなと思います。我々が利用する時間帯は、通学時間帯では無い9:30～15:30であるので、学生には影響は無いと思います。いずれにしましても、資料4の最終ページの項目の中に高齢者対応の項目を加えていただくことをお願いしたいと思います。

<議 長>

- ・ありがとうございました。今大変面白い提案をいただきましたけれども、今後しなの鉄道の利用者という意味では相対的に高齢者の方が増えてくると思いますので、高齢者を対象にした企画をやっていかなければいけないかなあとと思います。本日お手元にお配りをしましたシルバーフリーきっぷもそうなのですが、高齢者の方が対象となるような企画をこれからも考えて行きたいと思いますので、またご意

見がございましたら是非お寄せいただきたいと思います。

ク 先程の、また今回のアンケートの中にもいくつか課題があったかと思いますが、上田市ではもう一つ、しなの鉄道に接続をしております別所線というものがございまして、別所線の協議会が今年ありました。そのときに、教育関係OBの方から、別所線を使って新幹線・しなの鉄道を利用するときに非常に連絡が悪いことが会議の中でクローズアップされました。JR時代の事かも知れないのですけれども、身近にあるということで、上田電鉄の方に話に言っても埒が明かないというような話がありました。どうしても上田電鉄は、しなの鉄道なり、新幹線が決まった後でないとダイヤが作れない。というような非常に悩ましい現実があると社長さんが答えておりました。さっきの（増便の利用者アンケートの）自由回答の中に、東京からの方だと思うのですが、JRの切符を買って小諸に行くのに佐久平駅で降りて小海線の切符を買ってきたとありましたが、JRではそういう風に売ってしまうのかなぁと思いました。実態は良く分かりませんが、通常であるなら、軽井沢で降りてしなの鉄道で小諸駅の方が、時間も距離も短く、お金も安くなると思うのですが、改めてこういうご意見があるのだと知って、愕然としました。またその前後のところに軽井沢駅でのしなの鉄道への案内というか不親切さがいくつか出ていますが、JRの軽井沢駅を降りてしなの鉄道へ、どういう案内をしているのかなぁと思いました。しなの鉄道さんは上田電鉄がしなの鉄道に気を使うのと同じで、JRさんに気を遣わざるを得ないのかと思いました。会社の大きさ等もありますでしょうけれども、鉄道会社間の連携をもう少し相互が良い形になるように、今後検討していく中で、ここはしなの鉄道の活性化協議会ですが、上田には別所線の協議会もありまして、それぞれの協議会等の場で、相手の会社にこのようなことを言うといったことになっています。もうちょっとそういった連携が図れる形のものがあればいいかなぁと感じました。

ケ 資料4の関係で、非常に取組み、ご努力をされているということで敬意を表します。今後の沿線企業へのローラー作戦の展開・取組はこれからとのことですが、高齢者ですとか高校生といった交通弱者については、ある程度乗るという方向、しなの鉄道を使うという方向だと思います。しかしながら、これから企業の部分は、私どもも非常に今、長野電鉄の関係あるいはバスの関係もそうなのですけれども、公共交通の利便性というものを、当然環境を整えたいうえで、公共交通へ転換して下さいという形で、これからいわゆるモビリティマネジメント、乗り換える、といった施策が必要でございます。そういう中で今回、今ほどのまとめの中に、駅の環境、特にパークアンドライドやアクセス・乗継、二次・三次交通、そして、やはり駅に魅力が必要など、課題山積だと思います。一朝一夕ではなかなか難しいのですが、究極は、車から公共交通に乗り換える方法を、出来るところからやっていかざるを得ない、というふうに、公共交通の整備をやっていく中で非常にジレンマが有る分け

でございます。例えば利便性アップを図るという中で、具体的に、駅周辺の土地が空いているようなところを、積極的にパークアンドライドをやっていくことも必要でありましょうし、これからはアンケートの中にもありましたが、将来的にはICカードの導入によって乗継割引、小銭が要らないようにするなど、お金がかかる訳ではあります、車から乗り換えていくための、具体的な出来る部分というものを将来計画の中に盛り込んでいただきたいなど、同じ悩みを持っている立場で言わせていただきました。

#### <議長>

- ・大変建設的な意見だと思いました。とりあえず学校関係ということで回ったのですが、問題点は厚みが無いという点に集約されます。まさに課長さんがおっしゃいましたけれども、例えばしなの鉄道を利用するにしても、降りた先での二次・三次交通の問題があります。例えば学校関係ですと、社会見学で長野市へ行って、県庁も見る、善光寺も見る、信毎も見る、NHKも見るというふうに、一か所に留まらずに、複数を回る。しかも全て駅から遠いといったことがあると、最初からバスで行った方が便利であるとなります。部活動で遠征をするにしても、保護者会というものがある、保護者の方が送り迎えをしているケースがあります。何故かという、駅から遠かったり、荷物があったりということがあるからです。しなの鉄道がレールの上しか走らないという制約があるからで、なかなかそういった弱点を克服できないというのが一番の点であると思っております。そういった弱点をできるだけカバーしていく必要があるということで、例えば二次交通に関しては従来以上に連携リンクを図っていく、ということはもちろんのことなのですが、併せて例えば鉄道との共通チケットの形にすることによって初乗り運賃を割引くとか、あるいは駅周辺には駐車場は沢山あるのですが、無料でなかったり高かったりということから、できるだけ使いやすくする。例えば6カ月定期を持った方については割引くような支援のシステムを作るといった、鉄道の持つ弱点を補う厚みというものを作っていくことがまずは必要であるということで、今後取り組む必要があると思われる項目の中にも掲げてございます。駐車場の整備につきましては、市町に協力していただく部分があるのではないかと思います。他に回ってみて思ったことですが、しなの鉄道としては一生懸命にやっているつもりなのですが、それがなかなか地域に浸透していない。アピールが弱いというか。先程の増便についても知らなかったり、団体割引の制度を知らなかったり、ノーマイカーデーの回数券があることを知らなかったりとか、といった事実があり、しなの鉄道としては一生懸命にやっているのだけれど、独りよがりになっていて、取組みが地域に浸透していないという状況がございますので、きちんと丁寧に地域に説明をしていく必要があると感じました。この面にも力を入れて行きたい。そういう意味ではこれから市町村にも協力を頂く場面がこれからあるのではないかと思います。個別にご相談をさせていただきたいと思っております。それからいただいた意見で特に多

かったのは、しなの鉄道の活性化のためには駅を元気にする必要がある。それが鉄道全体の活性化につながるのだという意見をいただきました。この部分についても、従来から駅でのイベントであるとか、マップを作ってこういうコースをあるいてみてはどうでしょうかとか、サイクリングコースの紹介ですとか、いろいろな取り組みをしているのですが、先程のアピールが弱いということもありまして、この点につきましても力を入れて行く必要がある。と同時に先程小諸市さんからも言われましたが、町づくりの整合性というものを、駅を念頭においていただいても良いのではないかと思います。駅だけではございませんけれども、駅というものを一つの核として、駅を起点とした街づくりという考え方が、市町村の街づくり全体の中にあってもいいのではないかと思います。これから、しなの鉄道の立場としても、お願いをして参りたいと考えております。我々事業者だけの努力では限界があると感じ、今後連携を強めて一緒にやっていきたいと考えていますので、是非よろしくお願ひします。

- コ 地域連携ということで、駅の活性化ということ、今話をされましたけれど、千曲商工会議所でも、屋代駅の空き店舗を活用して、玄関口ということで、ツーリストへのインフォメーションを兼ねて、地域の逸品を紹介するようなおもてなし処的な整備をしている。丁度それが中心市街地の活性化事業と絡み併せてやっているのですけれども、残念ながら、折角しなの鉄道さんで企画列車等、いろんな企画をやっているのですけれども、現場に情報が伝わっていない。今日はお客さまが多いなと思っているとちょっと違う色の電車が来たということがある。今一生懸命努力されて、要望を聞いているのは分かるのだけれども、それが両方でのキャッチボールになっていない。商工会議所の立場で、企業さんや事業主さんからいろんな要望が参ります。そこら辺の要望は出しています。例えば新幹線の乗継の問題であるとか。こういう部分へのお答えが全然ない。今いろんな、やろうとしていることを、私どもの方から企業に情報をお伝えすることができます。それから先程のフリーきっぷ1枚につき、クーポン券をつけるということは、知っていれば私どもウェルカム（ステーション）でもできる。そういう意味では、情報が相互に行くように、心掛けていただければ、折角苦勞している思いが少しは前に進むと思うのですが、よろしくお願ひします。

<議 長>

- ・ありがとうございました。実は、最近上田の商工会議所で講演をする機会があったのですが、その際に出た意見で非常に印象的であったのが、しなの鉄道というのは上田市に本社がある会社で、地域公共交通として非常に大事なのだけれど、しなの鉄道の現状がどうなっているのか、課題は何であるのか、今後どういうふうに取り組もうとしているのかを知らなかった。協力をしなければならぬとは思っているが、どのように協力して良いかが分からないとのことであつた。これは非常に反省

すべき点であると思ひまして、これから連携ということが一つのキーワードになるわけですから、従来以上に地域に対してきちんと丁寧に説明をしていくことが大事だと痛感をしております。

サ 駅の活性化等という話で、今年度の町の取組みについてご案内をさせていただきたいと思ひます。坂城駅・テクノさかき駅では乗降者が若干増えているという状況がございます。内容を伺ってみますと、高校生の通学定期利用のお客さまが増えている状況がございます。新規の需要もそうですけれども、現在ご利用いただいている方を固定のお客さまとして更に伸ばしていただくということで、声を聞いていく機会を設けなければならない。駅は町の玄関口で、駅が元気でなければ町の活性化には繋がらないということから街づくりにも結び付けて行きたい。そんなことを考えています。壮大な話になりますが、坂城駅にエレベーター設置ということで、先程から出ておりますけれども、公共交通機関・交通弱者への対策、高齢化支援等さまざまな象徴的な課題としてそういったものを掲げて取り組んで参りたい。そういったことで、しなの鉄道さんとも連携をし、いろいろご協力をいただきながら是非取り組んで行きたい。そんなことを考えております。まずはできるところからの話になりますけれども、役場内部で、現在さかきチャレンジと言ひまして、職員の提案制度によって町を活性化するには、駅前を賑やかにするにはどうしたらいいだろう、といった事務レベルでの検討会を立ち上げています。また、先程高校生の利用が多いということをおし上げましたけれども、是非高校生にも協力をいただこうということで、駅から高校までの間の動線、またその中での支障になるもの、ユニバーサルデザインについて、お知恵を拝借しながらこうなればいいなあという声を聞く機会を設けていこうといった形で高校でも投げ掛けをして、これから始めて行こうというところがございます。まだまだまとまってはいませんけれども、地域連携ということで、町としてもできること、また地域沿線皆さん協力をして、一番は町民の皆さんが利用しやすい公共交通機関ということで取り組んでいきたい。そのように考えております。

<議 長>

- ・ありがとうございました。大変心強い内容で安心しました。さかきチャレンジというチームができるということですのでけれども、先程も言ひましたが、私どもも近々中堅若手職員をメンバーにしたチームを発足させますので、是非連携をしてより良いものができるように協力をお願いしたいと思ひます。

11月の中旬からは(ローラー作戦も)企業関係に入つてまいりますので、要請活動ということなのですが、一朝一夕に車から列車に転換ということは誰が考えても出来ない相談でございまして、粘り強く愚直にやっていくということなのですが、ローラーの意味というのは、お願いと同時に、利用者の視点でしなの鉄道を利用するにはこういう問題があるのだということ、またこういうことを改善すればもっと

良くなれるというようなご意見をいただいて、今後の対策に生かしていくというところにむしろ力点があります。また、併せて、学校関係でもそうでしたが、全面的な列車への転換ということはともかく、例えば水曜日のノーマイカーデーの回数券があることを知らない方が多い。こういった制度があるから、せめて1週間に1度位は車ではなくて、乗れる人は列車で来てもらう日を設けてはどうか、という問い掛けもして粘り強くやっていきたい。そんなふうに思っております。地域の皆さんとも連携をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

#### (5) その他

当日配布の販売・利用促進パンフレット等について  
事務局から紹介

<議 長>

- ・全体をとおして何かございますか。なければちょうど時間が参りましたので、以上で活性化協議会を終了したいと思います。

5 閉 会

以 上